

第21回 奄美を描く美術展



第21回 奄美を描く美術展大賞

グイショウ
継承のカタチ①
嶋田 敏夫（京都府）

S15 水彩

南国特有の強烈な色彩ではなく、新しい視点で、淡い色調のリズムを使いながら南国のイメージを美しく表現することに成功している。様々な動植物の表情がユーモラスに表現されており、奄美を見事にとらえられている。

本 展

入場無料

会期：令和4年10月23日（日）～11月20日（日）

《11月2日（水）／11月16日（水）休館日》

開館：午前9時～午後6時（最終日は午後4時まで）

会場：鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館企画展示室

巡 回 展

入場無料

会期：令和4年12月3日（土）～12月11日（日）

開館：午前9時～午後5時

会場：奄美市市民交流センター 2階 マチナカギャラリー



ハナ
華ソテツ

中村 哲郎

F15 日本画

(奄美市)

安定した構図、渋い色調の中にもいろんな色を感じさせる。モチーフの形から面白いものを作者の中で反芻して表現し、不思議な世界をつくっている。背景の処理も丹念に色を置いており、それが空間をつくっている。

優 秀 賞



カガリヒバナ

篝火花

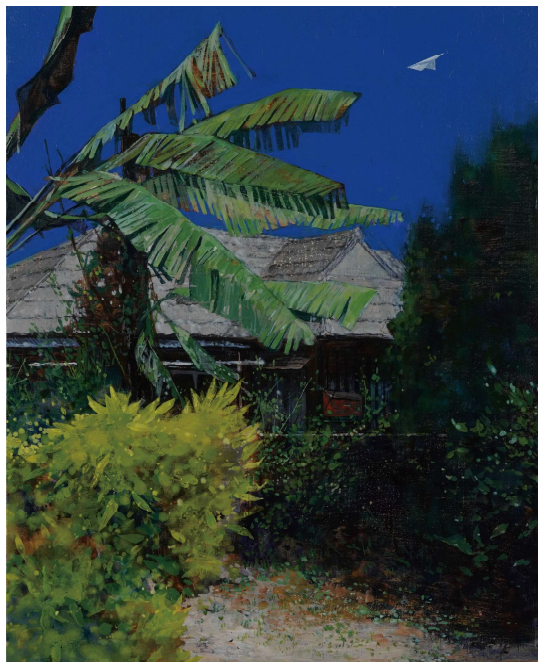
平野 良光

F15 油彩

(霧島市)

小作品ながら、画面にスケール感を感じさせる。葉のギラギラした白が画面のリズムを作り、それが背景の宇宙的な不思議な空間とうまくかみ合って世界観を活かしている。対比させた花の赤い色調が面白い。

優秀賞



シカン アマミ
時感 AMAMI (2022)

餅原 宣久

F15 油彩
(鹿児島市)

硬質で発色のよい画面に仕上がっている。普段の何気ない生活の中で感じられた自然を、強い日差しを感じる色と影で上手に表現し、風が一瞬止まったような深い青空に浮かぶ紙飛行機には作者のメッセージが込められている。

優秀賞



シゼン コエ
自然の声

田中 孝林

F15 油彩
(福岡県)

奄美に対する独特の世界観があり魅力がある。周りの木々や緑が丹念に描き込まれていて、画面を面白くしている一つの要素となっており、木々の間を抜けて落ちてくる強くやわらかい光が奄美の空気を感じさせる。

優秀賞



シラナミ ヨ
白波寄せて

上田 泰徳

F15 油彩
(東京都)

S字型の構図で画面の動きをつくり、様々なブルー色の段階が、主体である波の泡の感じや面白さを際立たせている。素直な表現がじわじわと作品の魅力を引き出し、まるでカメラが覗くような雰囲気も醸し出している。

優秀賞



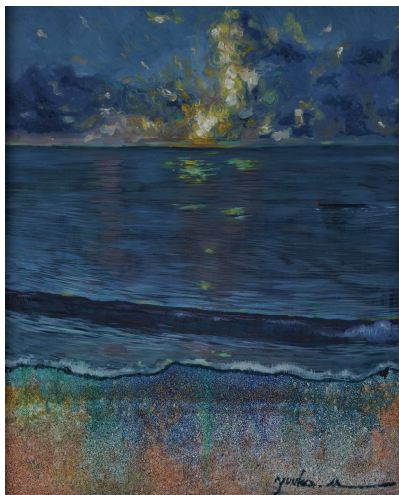
チ イ シンビオース
この地に生きる-symbiosis F15 (日本画)

KUMA-YOSHI

(神奈川県)

淡い色調の背景がとても魅力的な作品。モチーフであるヤドカリの殻が人工物であることで、切ない雰囲気を出しているとともに、現代社会に対する作者の強いメッセージを発信している。

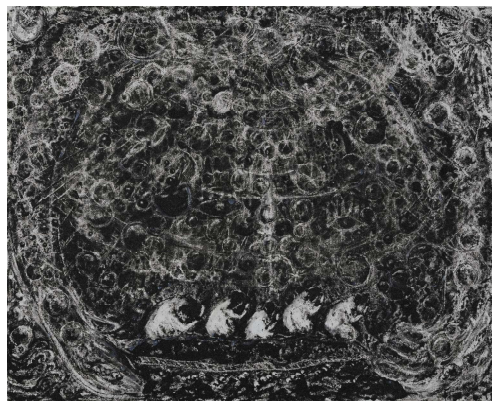
佳作・奄美の海賞



ヨル ムカ
夜を迎えるまで F15 (油彩)
村田 優佳 (鹿児島市)

刻々と変化する爆発的な雲の動きが、若い作者のエネルギーを感じさせる。様々な夕日の光の色と反射をしっかりと観察して表現し、手前の砂浜とうまく呼応させている。作者のさらなる成長に期待したい。

佳作・奄美の空賞



ワキャ ウガムンドー
～平瀬マンカイ祈り～ F15 (火山灰)
植村 恭子 (鹿児島市)

火山灰という素材の持つ魅力を十分に生かして、モノトーンの美しい画面を作っている。印象的に描かれた人物が超自然的なものとの対話というテーマを感じさせ、画面の丸い形の存在がリズムを作っている。

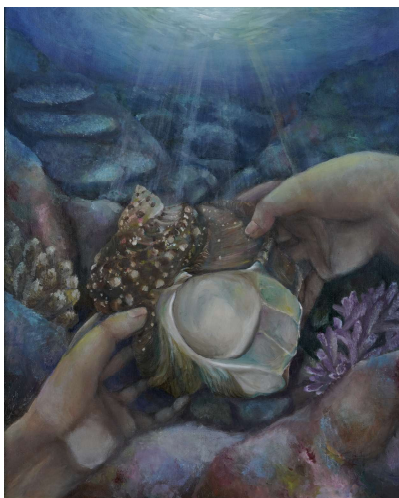
佳作・奄美の杜賞



ジョウゼン ツナ
もつれた上弦に繋がるもの M15 (アクリル)
Tako★MASARU (神奈川県)

サインや額も含めて作品の一部として表現されており、作者のこだわりを感じる。額の形からできる影の効果もねらったのだろうか。月に向かって伸びるガジュマルの木の形の面白さや背景、月の色調などにも魅力を感じる。

コンロンカ賞



ウミ カガ
海の輝き F15 油彩
盛 ころこ (奄美市)

明るい部分の色彩と周りの鈍い部分の色彩とを画面の中でうまく対比させ、貝が輝いて見える印象的な作品に仕上げている。手の表情もよく、優しく持ち上げている感じが伝わる。

ソテツ賞



カイゾウ エニヤハナレジマ カイト
(回想) 江仁屋離島と貝採り F15 油彩
新島 修二 (埼玉県)

のどかでユーモラスな印象を受ける。雲の形や影、サンゴ礁の緑などがいい表情をしている。画面全体の柔らかな感じの中にある無人島のシャープな線が対比的で、新鮮な感覚を感じられる。

【審査総評】

奄美を描く美術展には、奄美在住の方が日常の中で感じたことを描いた作品から、島外の方が南国のイメージを深めながら描いた作品など、様々な視点や異なる切り口から描かれた素晴らしい作品がたくさん集まっており、どの作品にもそれぞれの良さがありました。田中一村も独自の視点で奄美を表現することに成功した一人だと思います。

また、様々な素材を活かして、奄美を表現するという行為は、奄美の魅力に触覚的に再発見することに繋がります。奄美を描く美術展が奄美の魅力をより引き立てるものとして、これからも発展していくことを期待します。

審査員長 安達 博文 (富山大学名誉教授)

入選作品

氏 名	作 品 名	賞	寸 法	種 類
横山 陽一	ケンムン ^{モリ} の森	賞候補	F15	油彩
野間 まり	奄美 ^{アマミ オモ} を想うⅡ		F10	油彩
高山 法雄	ドロブ ^{シヨクニン} 泥染めの職人		M15	水彩
竹松 孝太郎	ミサキ ^{イザナ} 岬への誘い		42×31.5	芭蕉布
元井 晴美	アマミ ^{イロド} 奄美を彩る		F15	アクリル 油彩
藤本 信司	ナツ ^{イワ} 夏めくめがね岩で	賞候補	P15	日本画
佐藤 二三男	ダイコ ^{カミワ シマントソウ} 太古の神岩・四万十層		F15	アクリル
沖田 たか子	ナギ ^{ハマ} 風のウジジ浜		F10	色鉛筆
寛 文雄	フナンギョ ^{タキ} の滝	賞候補	M15	油彩
山田 弘美	ハバ ^{バイヤ} マンジュマイ	賞候補	F8	水彩
小島 尚子	サ ^サ クララン咲く		S15	油彩
丸山 良二郎	シマ ^{シマ} 島バナナ		F15	水彩
森 正志	シヨクジシタク ^{ハハ オモ デ スガタ} 食事支度する母の思い出の姿		F15	油彩
小宮 英子	サイセイ ^{サイセイ} 再生	賞候補	F10	水彩
成実	ゲットウカ ^{ゲットウカ} 月・桃・花	賞候補	51×39	工芸
西田 尚子	ジョウシ ^{ジョウシ} 情思	賞候補	F15	日本画
東 文代	マンゲツ ^{キンサクバル} 満月の金作原		F15	色鉛筆 水彩
菅原 きよの	カイセン ^{シヨウジョ} 海鮮になりたい少女		F10	油彩
外園 琉温	ハジ ^{キミ ヒト} 初めて木を見た人		F15	油彩
前村 卓巨	ソラ ^{ソラ} あの空Ⅱ		F15	油彩
児玉 柊子	ツム ^{ツム} 紬がれていく		F15	油彩
當田 青波	メイカイ ^{メイカイ} 溟海		F15	油彩
中嶋 友美	イキ ^{イキ} 息	賞候補	F15	油彩
Kate O'Callaghan	ザ ウエイ ツー マイ ハート THE WAY TO MY HEART	賞候補	F15	油彩
清 勝人	ヤキ ^{ノウフ} 山羊と農婦		F15	油彩
重村 敏光	メザ ^{メザ} 目覚め	賞候補	58×45	日本画
亀井 純子	ヌ ^{ミチ} 抜け道	賞候補	F15	水墨画
渡 洋子	アマミ ^{モリ ジョウケイ} 奄美の杜・情景		F15	油彩
田河 美紀子	トキ ^{トキ} シマの刻		F15	油彩
前島 美和子	ミワク ^{ミワク} 魅惑		F10	水彩
安原 憲昭	バシヨウ ^{アマミ シゼン} 奄美の自然		42×56.5	日本画
福島 秀實	フコ ^{イソバ} 冬の磯場		F15	油彩
瀧田 秀子	サンゴ ^{サンゴ} パープル珊瑚AMAMI		F10	アクリル
池田 三樹子	アマミ ^{ジキ} 奄美の時季		F10	アクリル
要 龍子	シンク ^{カジツ} 深紅の果実		F8	油彩
前田 正樹	リン ^{リン} マングローブ林		F15	日本画
源五郎 光	ゆるゆると		63×47	水彩
坂本 千春	ソラ ^{ウミ アイダ} 空と海の間Ⅱ		F15	アクリル エアブラシ
水間 和代	シアワ ^{オトズ} 幸せの訪れ		F15	アクリル
すずき あけみ	イ ^イ I LOVE AMAMI ”生きる”		S15	アクリル
西 かおり	タツゴウ ^{ヨル} 龍郷の夜	賞候補	48×45	日本画
平井 泰輔	アマミ ^{イザ} 奄美の「漁り」		F15	油彩
平 芳子	ハマユウ ^{サ トオ} 浜木綿咲く-どこか遠くへ-		F15	油彩
岡山 良治	キョウシュウ ^{キョウシュウ} 郷愁	賞候補	F15	油彩
宮田 直宜	ウミ ^{ウミ} アダンと海		F10	油彩
本間 泰伸	イノー		F15	アクリル
屋 幸子	アメ ^{アメ} 雨あがりのコンロンカ	賞候補	F15	水彩
渡瀬 俊輔	トワ ^{トワ} 永遠に		S15	アクリル